

本に触れ、 こころ豊かに

好きな作家の新作に触れたり、趣味の実用書で新たな発見をしたり、郷土の歴史を紐解いたり。今号では、図書館でその魅力を知ってもらおうと活動されている皆さんに、お話を伺いました。

図書館 ☎(61)3002

図書館 ボランティア

「本」との出会い、大切にしたい

楽しやかな第二の人生
― 寄贈本と古本市 ―

図書館の地下書庫には寄贈された本を保管しており、図書館まつりの古本市へ『お嫁に出す』ため、定期的に選別作業が行われています。

「捨てられてしまうはずだった本が、古本市を開催することによって第二の人生を迎える。それで、私たちは出品することをお嫁に出すと言っています。」と徳山さん。出品する本は損傷の度合いや内容、大きさを見て選別していきます。

「寄贈本を整理していると、寄贈された方の年代や生き方が感じられるんです。中には普段購入できないような貴重な本が寄贈されることもしばしばありますよ。」と渡辺さん。また、これまでの寄贈本の中には、いくつか印象に残っている本があると話すのは土崎さん。

皆さん本好きとあって、地下書庫での選別作業のときには、読書談義に花が咲きます。左から渡辺さん、黒田さん、佐伯さん、徳山さん、石原さん、土崎さん



本と人との出会いを演出
― 月に一度の展示替え ―

テーマに沿った本が目を引く、話題の本コーナー。

「新しい本や話題の本も良いけど、他にも面白い本はたくさん眠っているんですよ。」と話すのは上野さんと金子さん。

「展示する本は来館者に向けてのアピール。地下書庫へ移された本も、展示して『起こして』あげたいんです。」

「懐かしいね」の共有
― 映画上映会 ―

「昔見たけど、もう一度見たくなって来たよ。」

月に何度か開催される映画上映会ではチャップリンやヘップバーンなど、懐かしの映画を上映しています。隣町から来てくれる人もいます。映像資料の貸出しはしていないため、希望の映画があればカウンターへと担当の阿部さん。選定の参考にしています。

町の歴史を保存
― 新聞記事切り抜き ―

大磯に関する新聞記事を切り貼り、保存しています。切り抜きは1968年からあります。



「作業した後は手が真っ黒！」と古知屋さん(右)、木守さん(左)

わらべ歌で遊ぶ

簡単な言葉をゆったりとしたリズムに合わせて歌うわらべ歌。赤ちゃんから幼稚園へ行くまでの年齢の子どもたちと保護者を対象に、みんなと一緒に歌ったり、言葉の意味を補うために、手足を動かしたり、くすぐったりして、全身で歌を体感します。

「わらべ歌を歌うと絵本の読み聞かせにスムーズに入ることが出来ます。ここで絵本を楽しむ基礎が出来上がっていくと、大きくなくても絵本が好きなお子が多いんですよ。」と高橋さん。ブックスタートをきっかけにわらべ歌へ参加し、成長した子どもはおはなし会へと、つながっていくと話します。

また、親同士の子育て談義や身近な情報交換など、コミュニケーションを広げる場ともなっています。

NPO 法人大きなおうちの皆さん



おはなし ボランティア

想像力と優しいこころ、育んで

「何か」を感じてくれれば
それでいい

土曜日の午前中に開催される「おはなしと紙芝居」では、子どもたちの様々な反応を見るのができます。

今年の4月からおはなしボランティアに参加している中村さんは「子どもたちに感想を聞かない」ことに驚いたと話します。「おはなし会は教育でもお楽しみ会でもない。面白かったと言ってくれる子もいれば、おは

なしに共感できない子もいる。それで良いと思っています。」と二榎木さん。その子が何を思うかが大切だということです。

ドラマチックに演じない

「子どもたちが真っ直ぐとした目でおはなしを聞くので、いつも真摯な気持ちで『淡々と語る』ような心がけています。」と村瀬さん。過度な演出は子どもたちの想像の妨げになると話します。

見せ方に工夫を凝らして

「子どもたちに見えるように、絵本を広げて持つって、本当に難しいんです。」と中村さん。「鏡の前で練習しました。」と田中さん。

ふたりとも少しでも見やすいようにと、練習を重ねています。



左上から二榎木さん、中村さん、田中さん、村瀬さん。

月に一回木曜日の午前中に行っている、未就園児のおはなし会では、紙芝居や手遊びなどで、親子の笑顔がはじけます。



おはなし会の終わりにはロウソクの火を消し願ひ事ひとつ

おはなし会ではおはなし(すばなし)、絵本、紙芝居など、対象年齢や季節を考えて選びます。



NPO法人 大きなおうち

おうちみたいな図書館、ここにあるよ

毎年開催される人形劇は、次々に演じられるパフォーマンスに、大人も子どもも大歓声



来館のきっかけづくり

「たくさんの方に図書館を知ってほしい。」と話すのはNPO法人大きなおうちの高橋さん。来館のきっかけをつかむような様々なイベントを定期的に開催しています。

「イベントの際は、ただの人集めにならないよう、関連する書籍の展示や情報の収集に努めています。初めて図書館に来た方にも継続して利用していただくのと嬉しいですね。また、これからは大人の方を対象としたイベントも企画していく予定なので、ぜひお越しください。」



「映画を楽しんでいたけると嬉しい」と阿部さん